

天候不順を経験した年 だからこそ投資は必要だ

今年もいろいろな方たちにお会いして、役に立ったり、無駄だったりしたことを学んだ。農作物に関しての出来は春の低温、6月からの高温、そして多雨、典型的な天候不順ではあったが、輸入の食用大豆並みの価格が続く北海道産大豆の収量はますます。シカゴ価格に運賃・経費を上乗せされた価格と同じ北海道産麦の収量は20年前に逆戻りだった。長沼だけではなく全道で麦の収量は非常に悪かったようだが、私の収入は過去5年間の内最高と最悪の年を除いた3年間の平均のほぼ90%が保障される共済制度に加入しているので、来年も上級シートでラスベガスに行けそう。

天候不順な年ではあったが、やはりしつかりとやらなければならぬ仕事がある。5年前に農地の借地契約をした転作田3haは、150mmの土管を使ったり、普通はトレンチャーを使うところをケチらないで、幅の広いV字型のバケットのユニボを使ったりしたが、いくらあがいても水が溜まり、乾きが悪かった。アイガモ農法をやるわけにもいかず、結果として暗渠排水につき込んだ自己資金は500万円也。私なんぞに「ど

うぞ宮井さま、90%の補助事業をお使いください」なんて話はあるはずもなく、すべて自前だ。普通の暗渠だけであつたら20万/haのだから、何だかんだで8倍のコストがかかった。一度投資を始める和金髪・ブルーアイおねーちゃんと同じで、早くなんとかしよう」と焦ってしまうの

だろう。過去の事例を調べなくてもほとんどの減収の原因は湿害、つまり土が十分乾かずに作物の生育が制限されることにある。その様な状況を変えるには暗渠作業を本格的に行なうしかない。水みちを維持するためにはいろいろな資材が使われる、粘土製の土管、プラスチック製のパイプ、砂利、火山レキ、ヤチ木だったりする。いずれにしても土質が泥炭である場合、満足できる暗渠効果は10年程度。つまり業者に頼まず、毎年10haを超える農地を暗渠整備することは金銭的以外にも非常に大きな労力と2週間程度の時間が必要だ。

南空知の平均経営面積が15haに満

いいことも悪いことも 水に流して?

Vol.33



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

たない理由に、この暗渠排水の負担が大きい。つまり暗渠排水作業の負担軽減ができた生産者のみが規模拡大できるチケットを手に入れたことになる。もつと的確な言い方をさせていただけると、畑並みの排水を求める水田農家が少ないのは、金銭的な負担をしなくても良いと言う意味と同じで、畑の様な投資をしなくてもやってけると多くの水田農家は判断しているのだら

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

う。多くの北海道の地域そして長沼で今後、水田経営が良いかどうかの判断をする勇氣ある者は少ない。ただ答えは40年以上前からの水田休耕・転作事業が始まっていることを考えれば……。

昔から嘘つきはいる。25年ほど前から本格的に営農を始めた時、プラスチック製パイプのセールスマンは「今回のパイプはどんな機械が乗ってもつぶれません」と自信満々で言っていた。結果は呆れるくらい排水口から水が出てこない、ひどく潰されたパイプになっていた。そんな会話が数年おきに繰り返させ、二度とパイプを使うことはないし、地域を見てもだまされる者は少ない。

こんなこともあった。ちょうどそのころ民間ではない団体が考え出した、浅暗渠なる技術が導入されることになった。水は表面に溜まる、だから土表面から60cmくらいの所に暗渠パイプを施工する技術だが、これが散々たる結果となる。やはり暗渠は最低1mよりも深い所に施工しなければ本来の能力を発揮できないようだ。もう一つ、プラスチック製のパイプの欠点は所詮、土の生物で分解できない産業廃棄物であることだ。施工後30年も経てば、浮力で地表付近に上昇してくる。それをサブソイラが引っかけてしまう。

一体、粉々になったパイプを片づける作業負担は誰がやるのか、と暗渠の度に考え込んでいた。そして心のどこかでみんなが悩んでいるのだから、何か新しい技術の到来の予感がしたのもやはり同じころだった。それが「無材暗渠」と呼ばれる北海道・江別市の民間企業で考えられた新技術である。この辺のことは改めてページを割くことになるだろう。

暗渠で悩んでいた時、あたかも天から舞い降りた妖精のごとく、救いの手を差し伸べていただけ、ありがたい話があった。湿害の状況を見かねてか、スガノ農機千歳営業所からある提案があったのだ。「畑の凹凸を平ら、もしくは3次元的に傾斜を作ることが出来るスガノ製のレーザーレベラーで水はけを良くしましょう」というものだった。既存のレベラーは水田用に作られたが、今回のレベラーは畑専用、ただし試作品なので、トラクターを提供するだけでデータ取りをするためのデモと言うことになった。とはいっても、測量を行ない、数値を出してプリンアウトされた立体画像を見た時に「良い仕事してますね」と思った。数値では480mの移動が必要で、これでは3日ほどかかり、後の日程も詰まっていたので、とりあえず1日でやれるだけやろうと言うことに

なった。結果は240mの土の移動であったが、その後の水の溜まり具合から、この畑用のレーザーレベラーの未来は明るいと思った。スガノ農機さんの宣伝はこんな感じでよろしいでしょうか？

あなたは誰と戦略的互恵関係を結びましたか？

さて年末が近づくと、皆さんもご存じの恒例の行事がある。それは本年、巷を飛びかった流行語大賞の発表の季節でもある。本年は「ツイッター」「戸籍上生存」「食べるラー油」などが候補かも。

私の本年のイチオシは中国との関係を示した「戦略的互恵関係」だ。対立から嫌いだけど、とりあえず仲良くしましょう」と言う日本語らしい。そんなわけで私がこの1年微笑ましい戦略的互恵関係を築いた思い出をご紹介します。1月 ヤッターマンのカラオケがうまかった坊主の娘。2月 米国の片田舎の飛行場でアルバイトの女性店員から「まるかいて地球♡」と日本語で突然言われた。3月 病気で寝たきりだと聞いていたおじさんが滋賀県の大津駅まで自家用車で迎えに来たこと。4月 春になり農作業が忙しくなるのでしばらく来ませんと言ったら、

また太りますよと脅したジムのインストラクター。

5月 V8の愛車のブレーキパットは、まだ2年持ちますよと言って、1年でローターまで破損してしまい、35万円請求したヤ○セのフロント。

6月 どんな男が好きだ？と聞いたら、スイス人の様な男性が好みだと宣った女性従業員が働き始める。

7月 オー・イエス！と言いながら目の前のミラーを気にしながらバックが下手な派遣社員（トラクタの運転）。

8月 5ルーブル借りて、後で10ルーブル渡したら、お釣りをくれず、そして決して笑わなかったモスクワの女性通訳。

9月 道北に住む32年前に可愛かった女性がオバちゃんになっていた。

10月 僕、女よりも男が好きですと言って、ニューハーフのカレンダーをじっくり見ていた地元長沼のアルバイト男子高校生。

11月 農作業も終わり、東京に別件を作りだすオヤジ。

そして12月は豊かな戦後を作ったのは日本人が頑張ったのだと考えるならば、12月23日に極東国際軍事裁判で絞首刑になった7名の英霊に合掌すべきだ。そしてこんなコラムを読んでニタニタしている**変わり者の皆さん**にメリークリスマス。